

世宗
初人
離形
下

博風板眉之割

波風板拾ふより 七ッ一ッ半式ツと

加あり是と拾眉かけと申なり

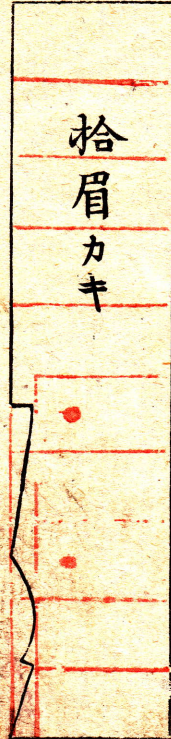
又七ッふより 七ッ一ッ半とかけと

七眉かきと云あり

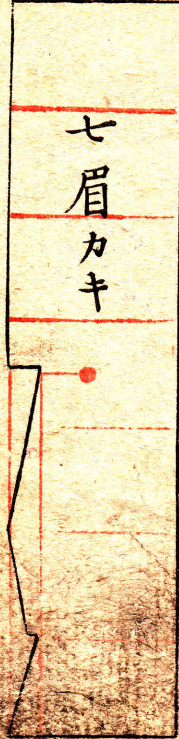
割付ハ上中下と拾付をきより

反丁をかけ可

拾眉力キ



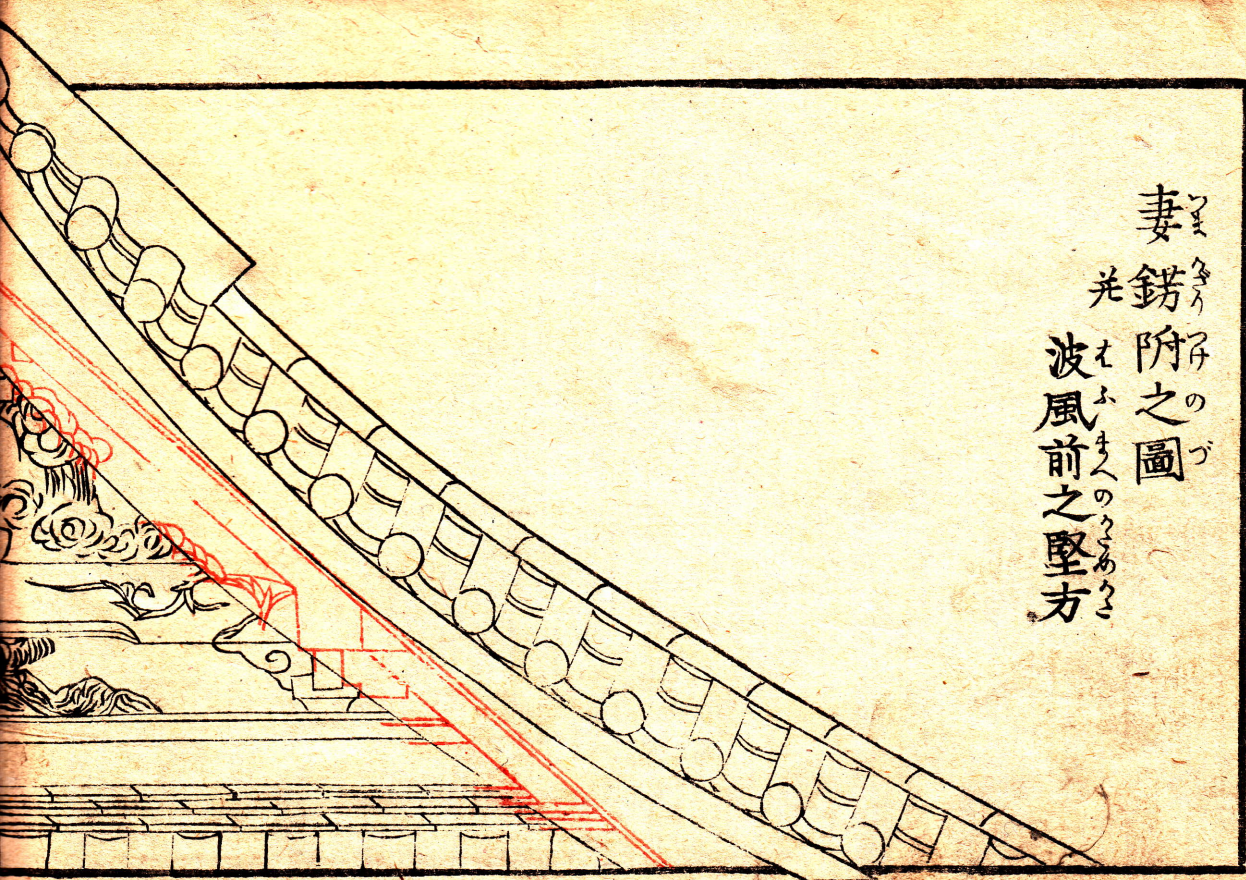
七眉力キ

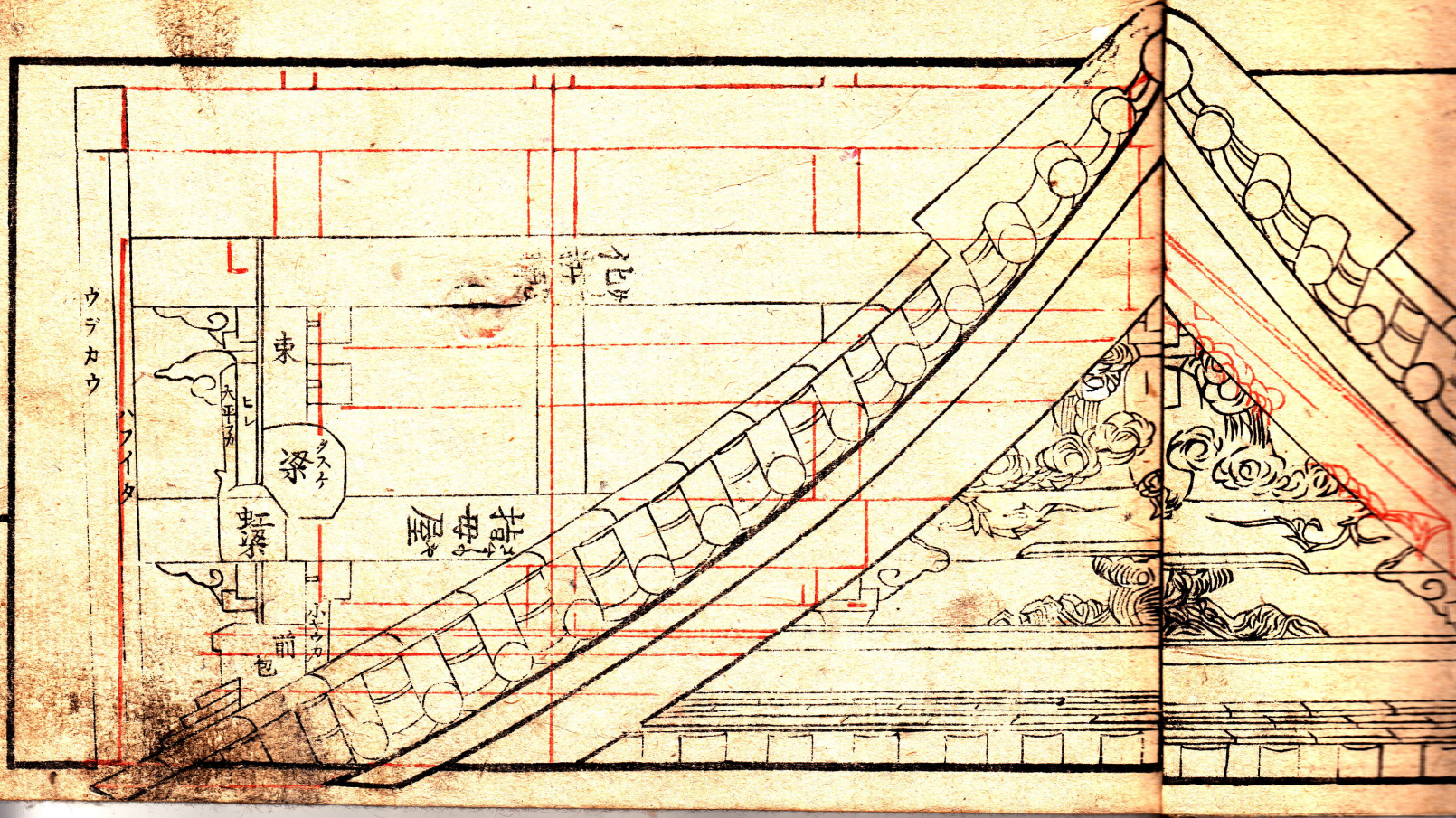


妻^{つま}鋸^{のこぎり}附^の之^の圖^づ

并^な

波^{なみ}風^{かぜ}前^の之^の堅^{かた}方^{かた}





ウラカウ

東

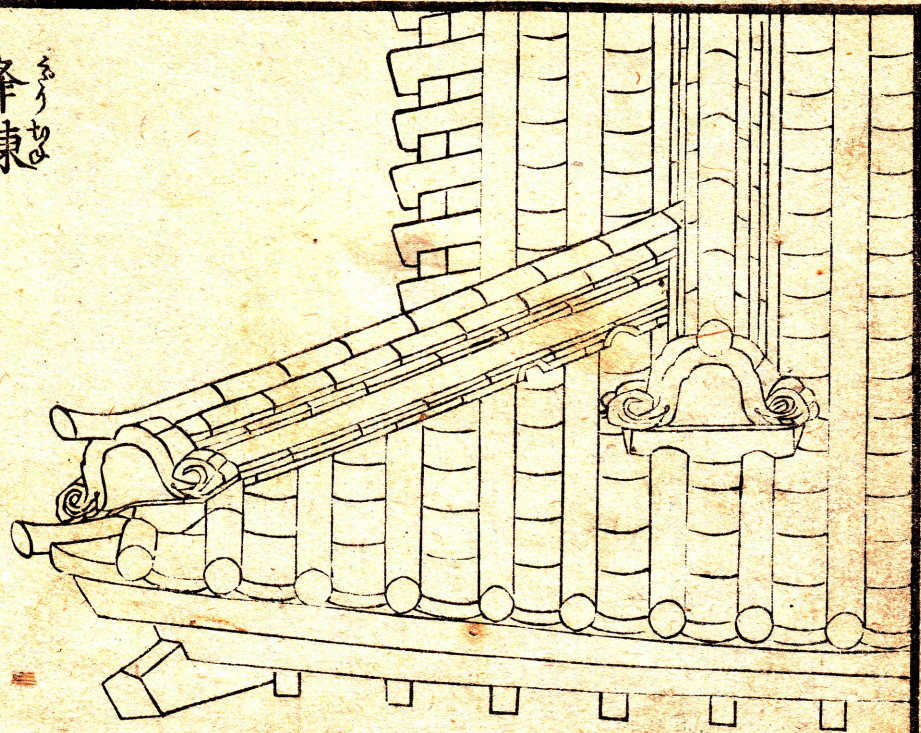
虹梁

指母屋

前

降棟さうちや

軒端之圖のきさちのづ



一 大棟鬼板建所ハ波風の面見えス
 降棟鬼板ハ茅葺の面見えス

軒端之圖

一 大棟鬼板建所ハ波風の面ハ入る
おしひちふいしちとろ たいふ づこいふ
降棟鬼板ハ茅葺の面ハ入る
ふりやひちあはせ ちやあふ づこいふ

博風板之割

波風のとり板をさあまあり
たいふ ありとく

大ハちいさハおちまう取なり
おほ ちやう ちやう

寸取八分七分六分と取あり

すとりと中ハ流八尺のそふ板と
ちやうと

腰ゆへ八寸の中ハ迷うと云あり
こし

是と十ふより上ニますと
これ

三分よりと中ありと小を分の
ちやうと

まあり又中ハ腰月形あり
まこちやう ちやうと

これあり
ありと

波風尾落也ハ小ハかりと云の
たいふ ちやうと

うへより極きまのせいのやどふえより

大波風おなみいちちとありふる下

一裏甲うらこうの大サ波風の腰こし割きりきりの

厚あつさなり上うへふまりあり

一お包おづの大サ波風の腰こしやどあり

是これをこれとと小割こわりきり取押とめおし小用こようあり

又八分やちぶん小造こぞうるも入いれ毎まい居ゐるなり

一博風はくふうのなりなりのなりなりのなりなり

十分じふぶん又また二十分にじふぶんふ引ひて小規こいね矩かねと

入いれ一二三いちにさんの敷しき付つけをいしきす所のなり

明あきとらんらんのめて十分じふぶん一いち二十分にじふぶん

十分又り二十分ふりて小規矩と

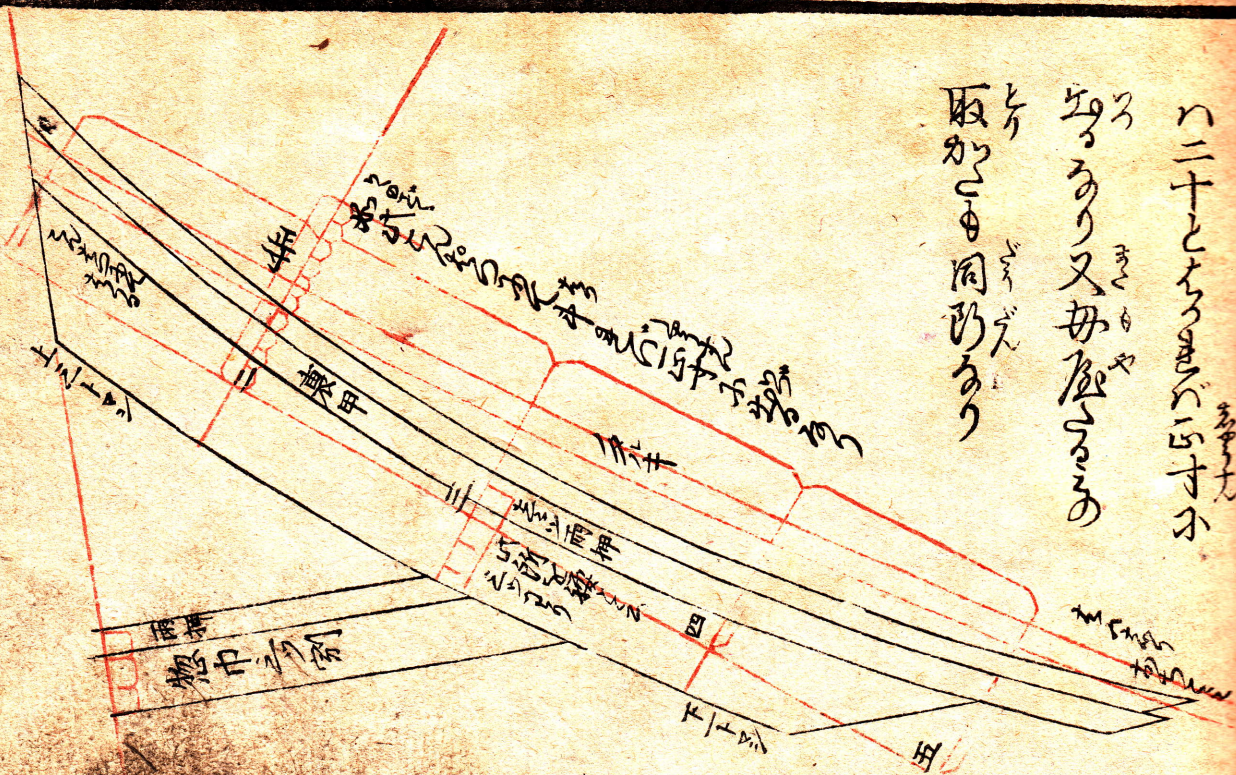
入一二三の敷付をいさす所のそのの

明をえんがめて十分一十二十分

の二十とちうまづふす小

ちあり又母屋なるもの

取かとも同形あり



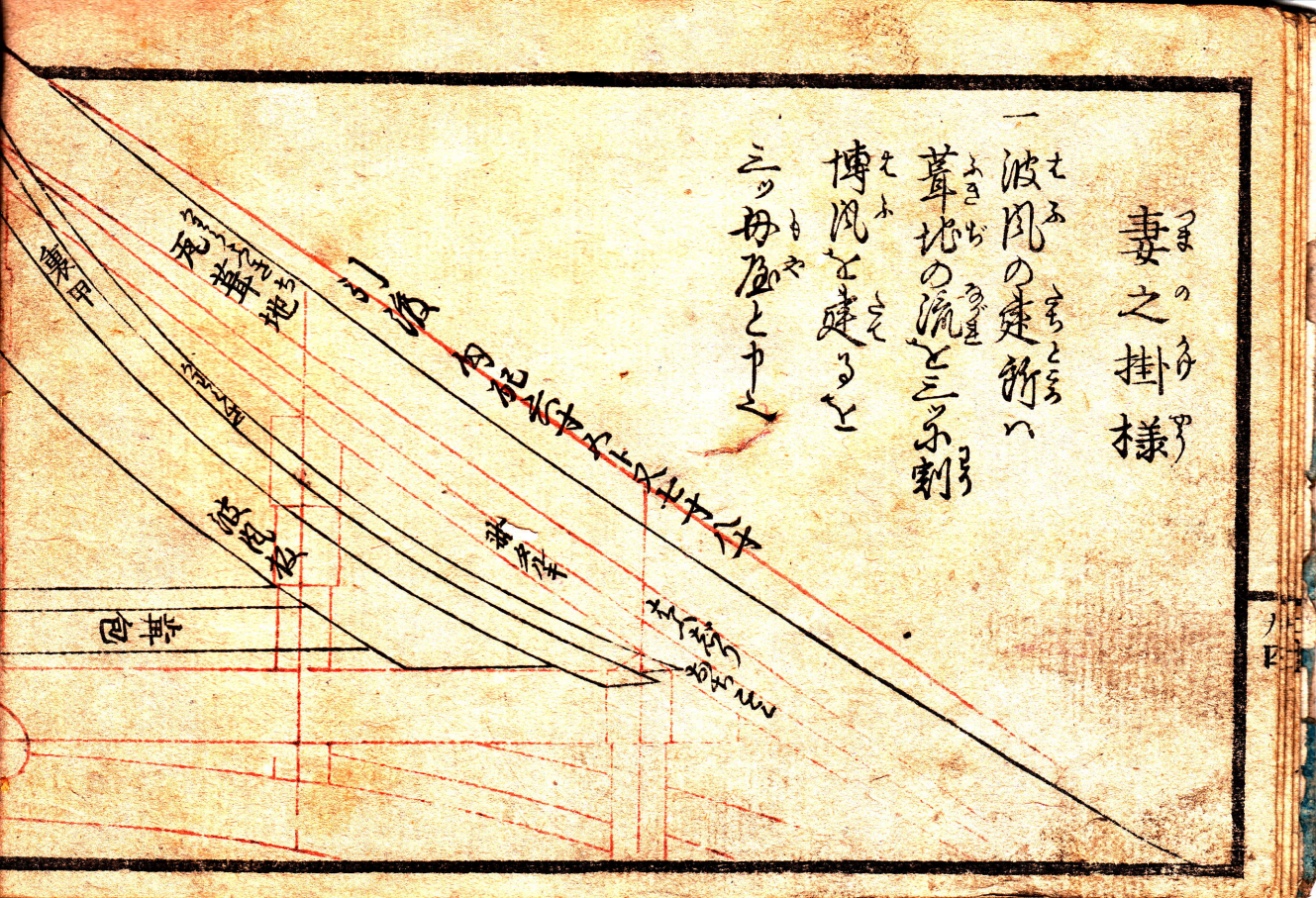
妻之掛様

一 波風の建所ハ

葦地の流と云ふ

博風を建ると

ニッ母屋と云ふ



瓦葺地

草包

小屋梁

野槌

櫓大

野

楯母屋

野母屋

仙遊棟

野棟

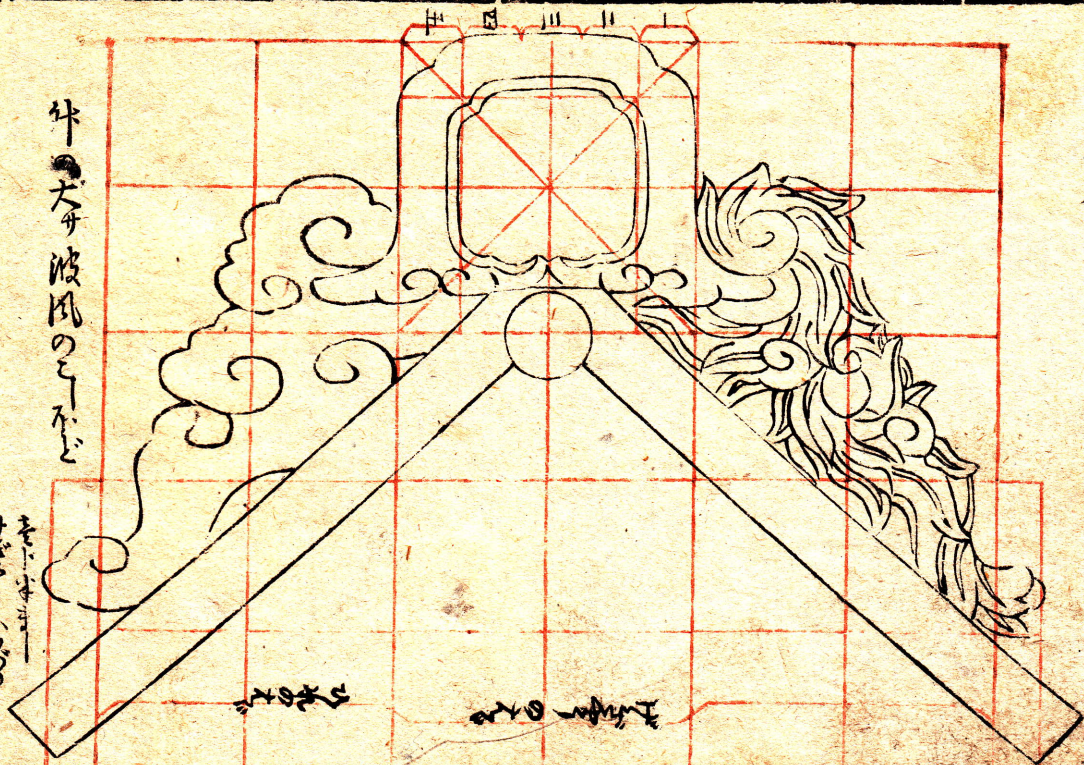
箱棟

裏甲

波内板一枚コロビ又ハトモ

一界のそりろの庵ふきとて東
波風をこく平木ひきさく
とふのちりと化るあり

鬼板雲水之圖

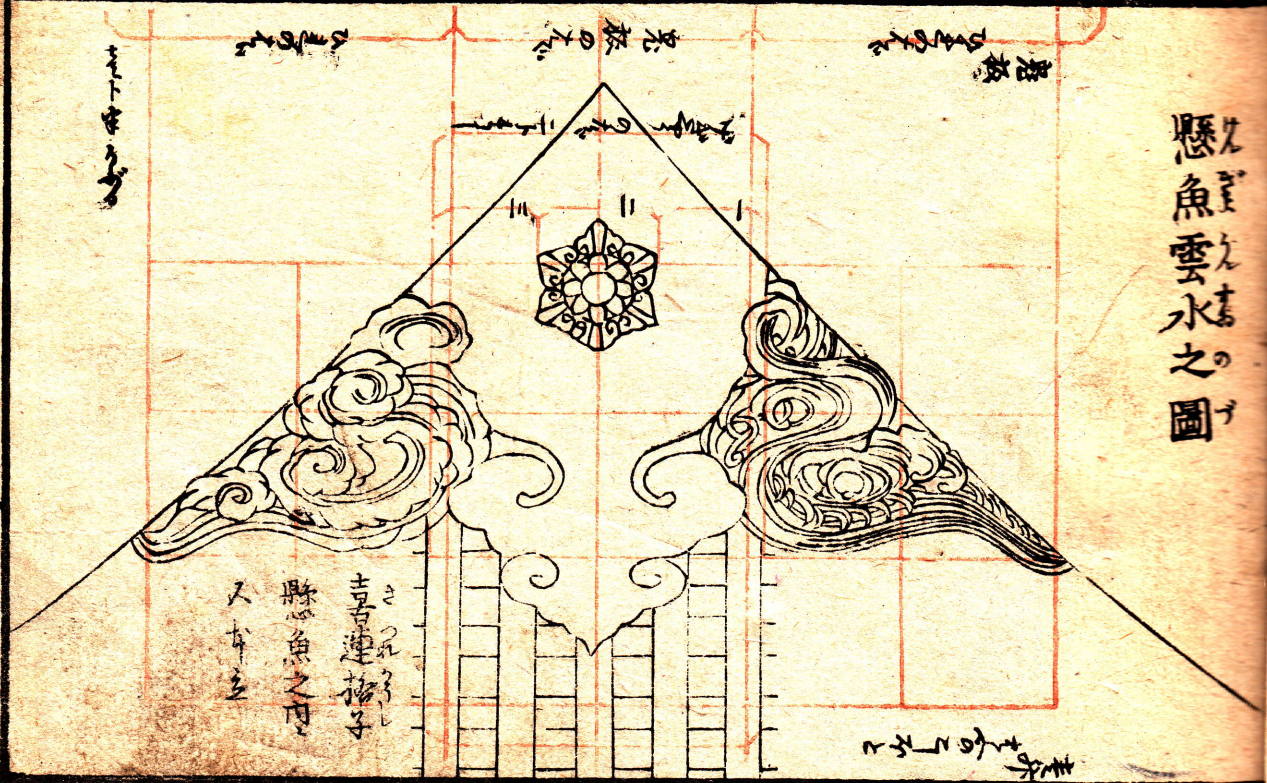


きよしげ
けいしげふみおる

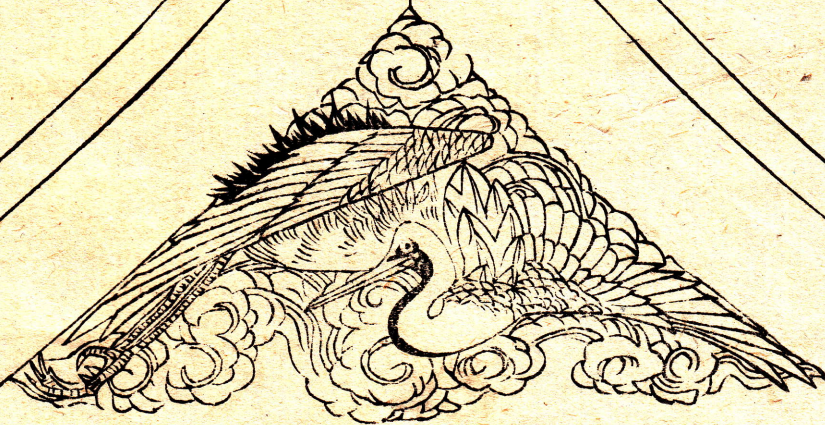
外大波風のしるし

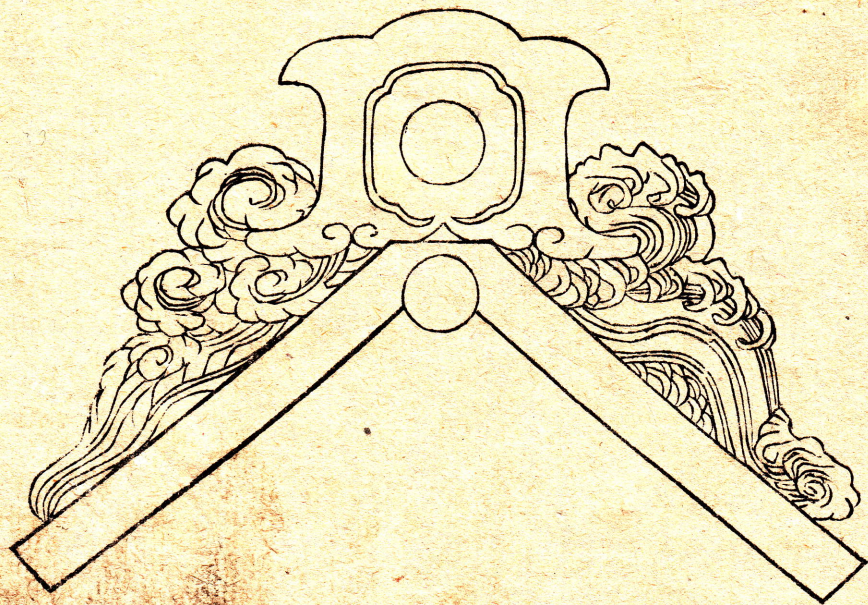
をいふし
けをいふし

懸魚雲水之圖



千鳥波風
懸魚鶴之圖





千鳥^{ちどり}波^{なみ}風^{かぜ}
鬼^{おに}板^{いた}之^の圖^ず

唐波風鬼板之圖

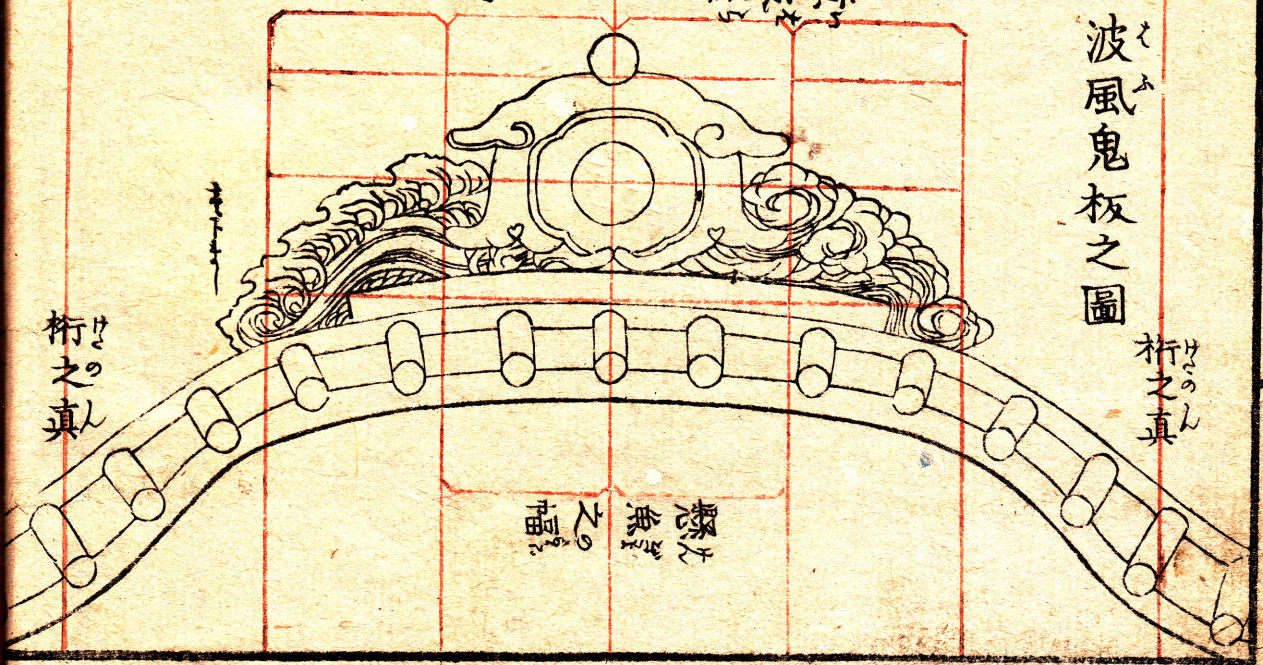
桁之真

意波羅

四ッ割

懸無之留

桁之真



唐波風

懸魚の圖

タカキノ真

鬼板の幅

鬼板

タカキノ真

タカキノ真

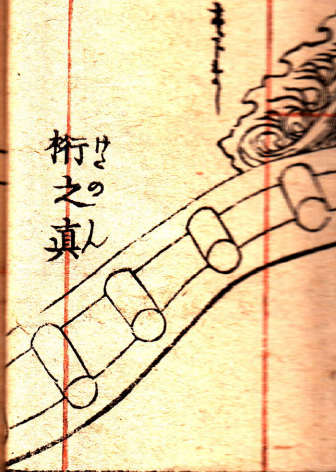
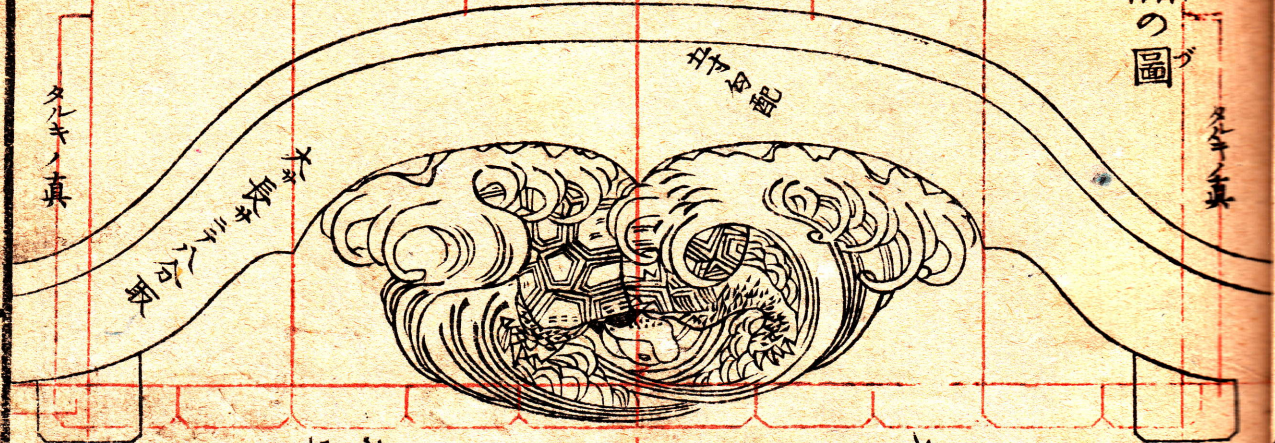
桁之真

桁之真

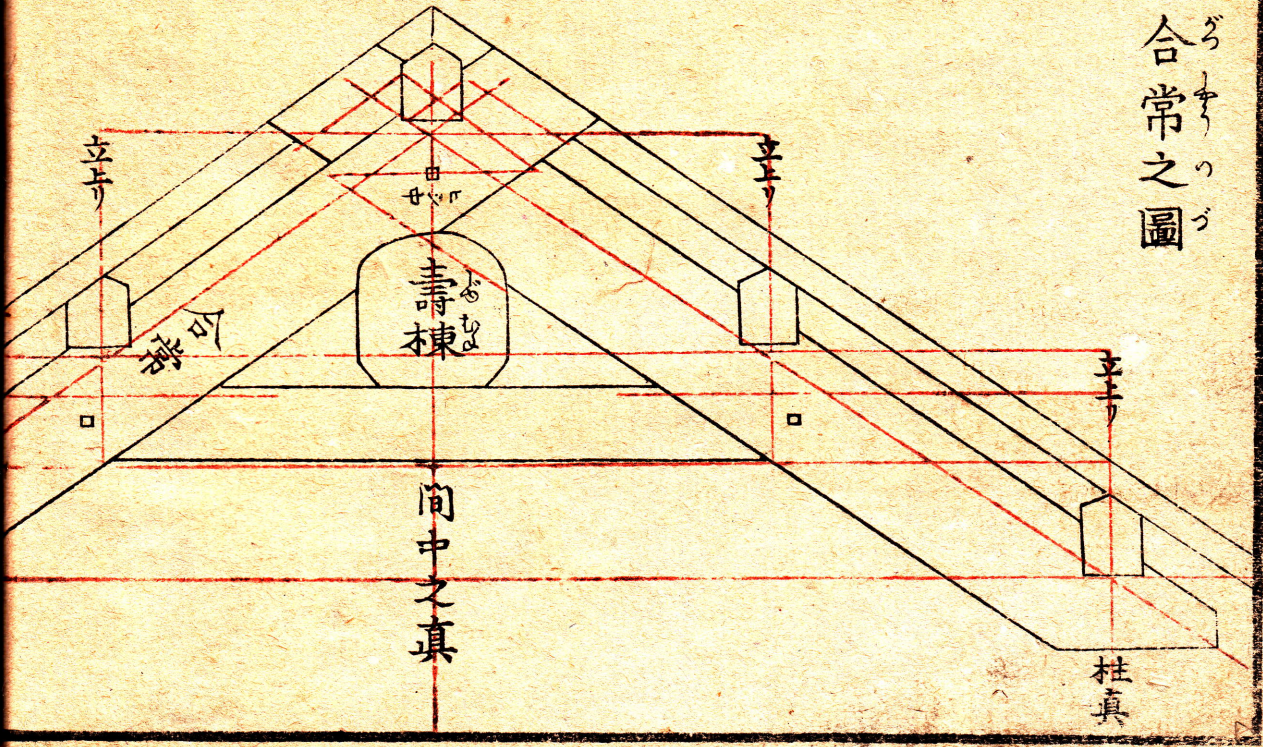
榑之真

拾割

桁之真



合常之圖 ぐさうのづ



凡太合常癖下ハ之取様

一凡太合常癖ハ本小あうド

かゝる小あうドハ柱の

ふむふとふむとふむと

をひひひとひひひと

家の裏りひう板を

あてを水と引可し

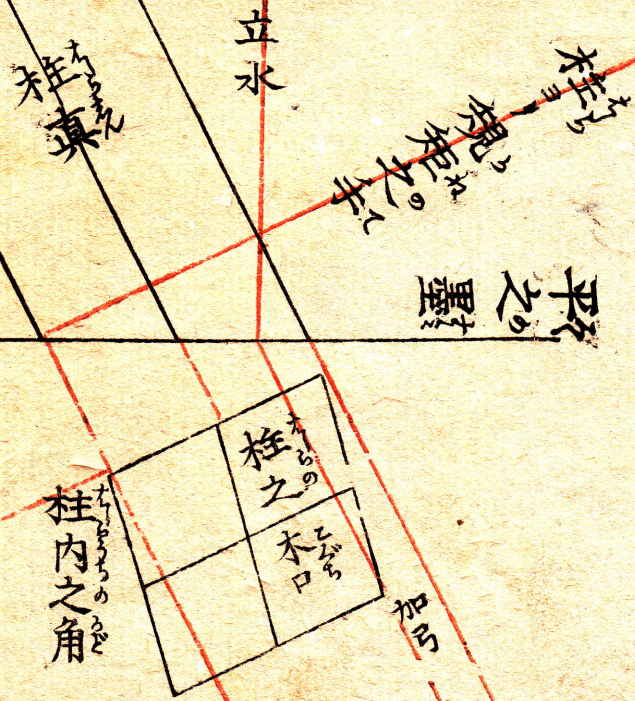
壽棟

立水

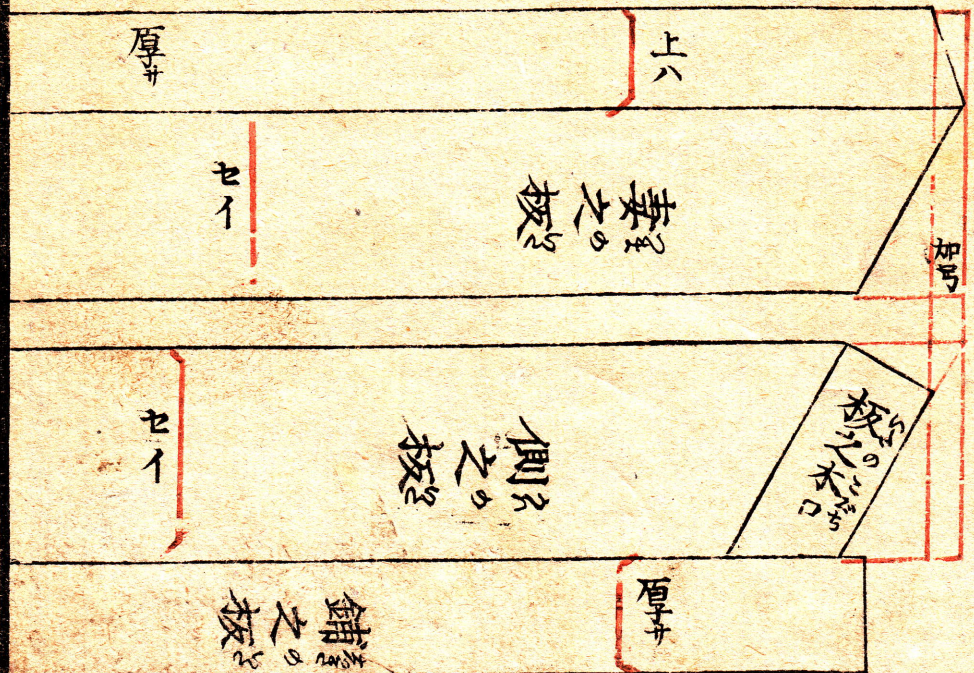
立水

無町

四方轉加弓之取樣
まきうとくひりゆみのとりやう

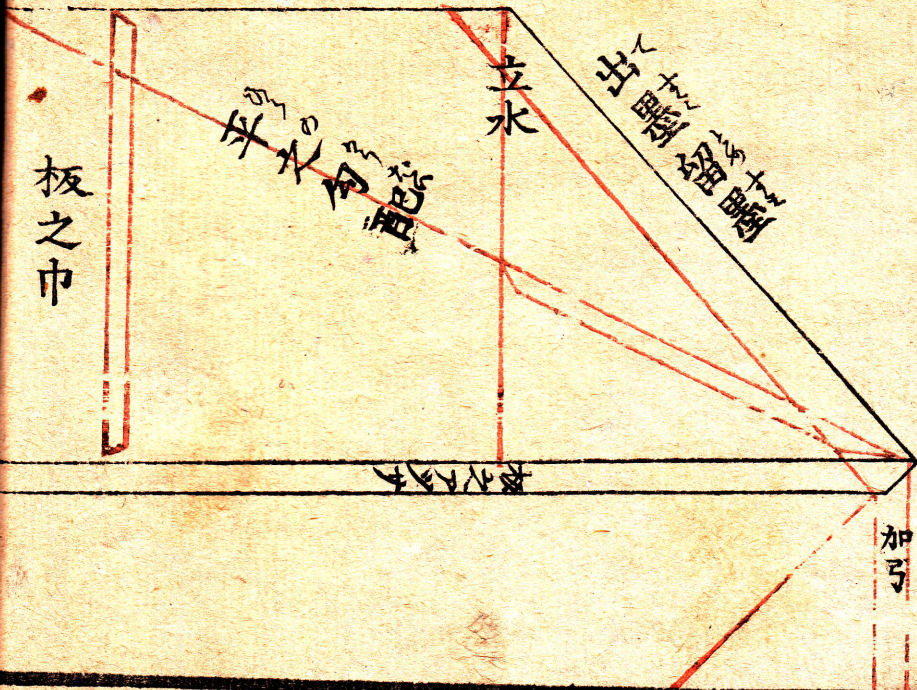


トキヨロヨモとのよりすう
漏斗加弓之取様



厚板屋根隅之

一
平の勾配を板巾と曳止
立水小曳上尚書を曳る

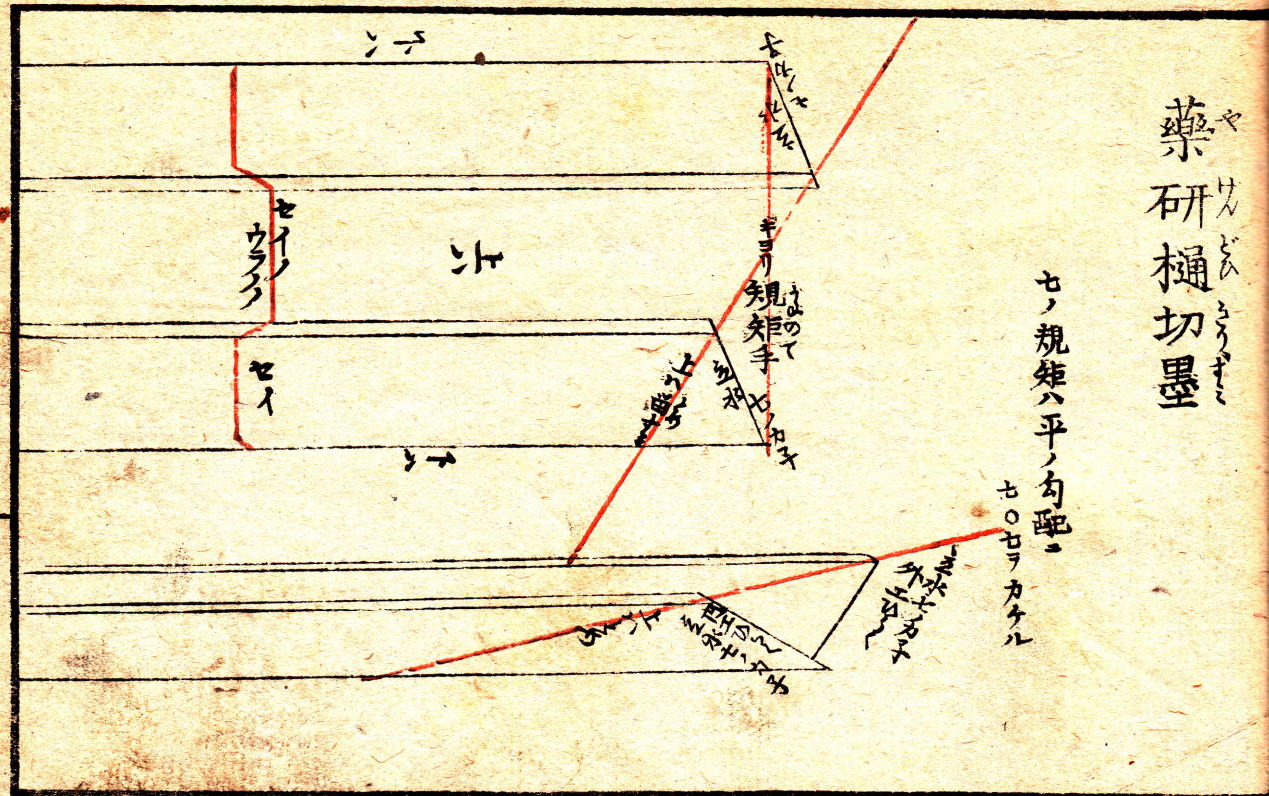


板之巾

藥研槌切墨

セノ規矩六平ノ勾配

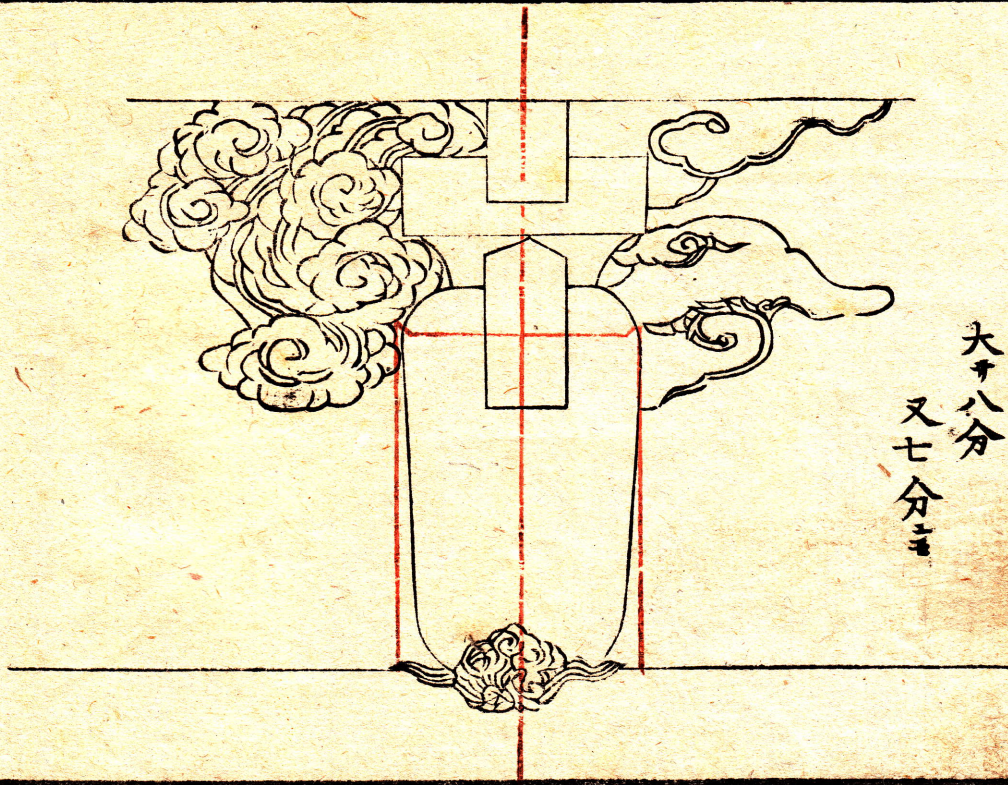
セ〇セラカケル



虹梁下大瓶束

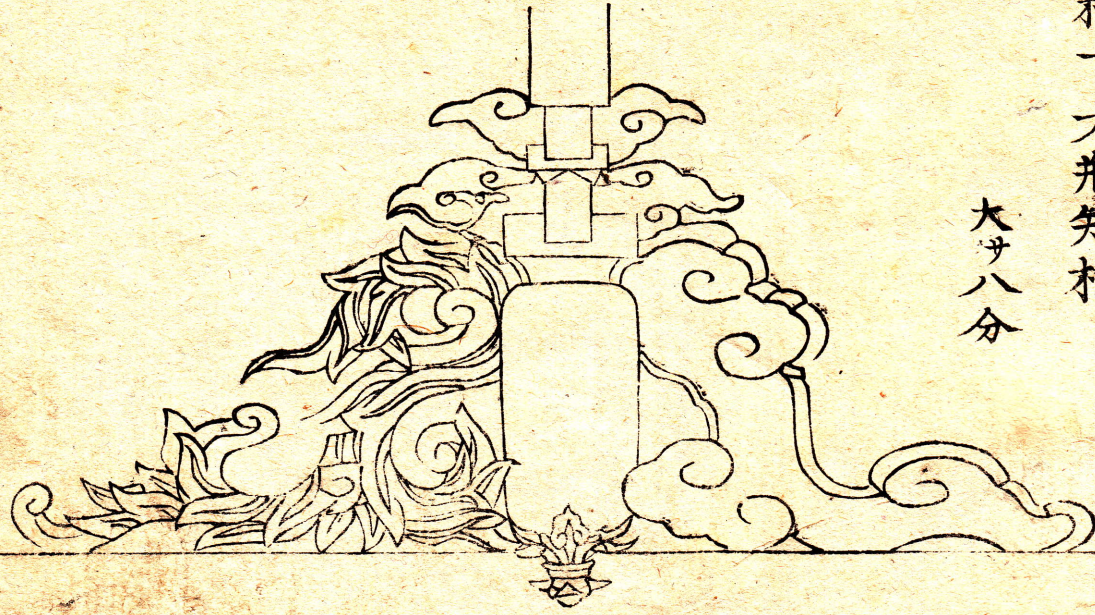
大十八分

又七分

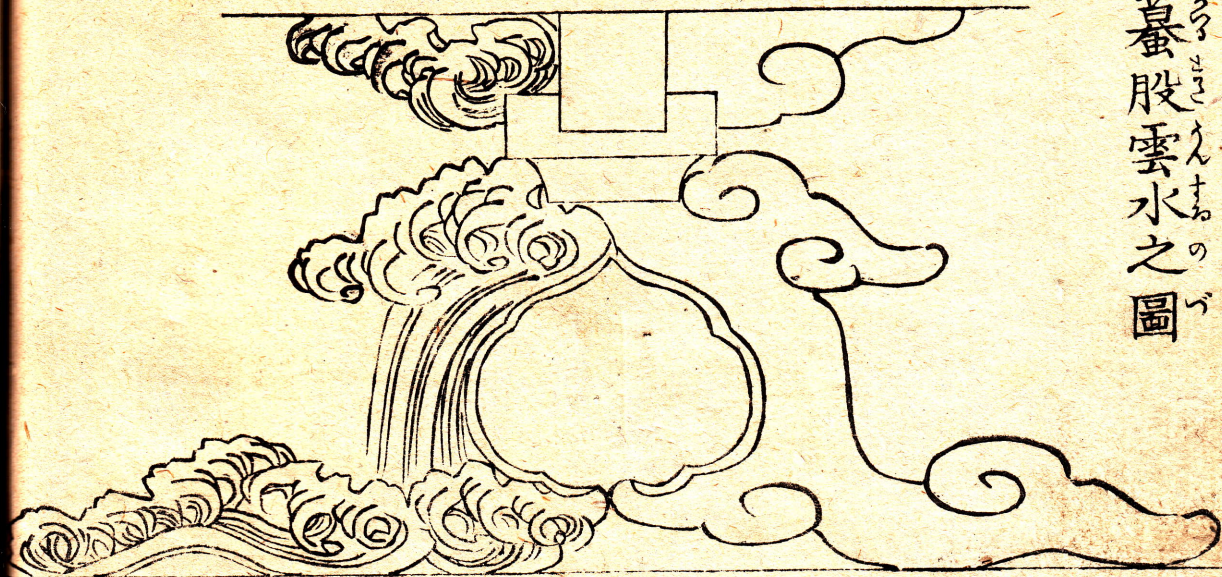


棟下大瓶短柱

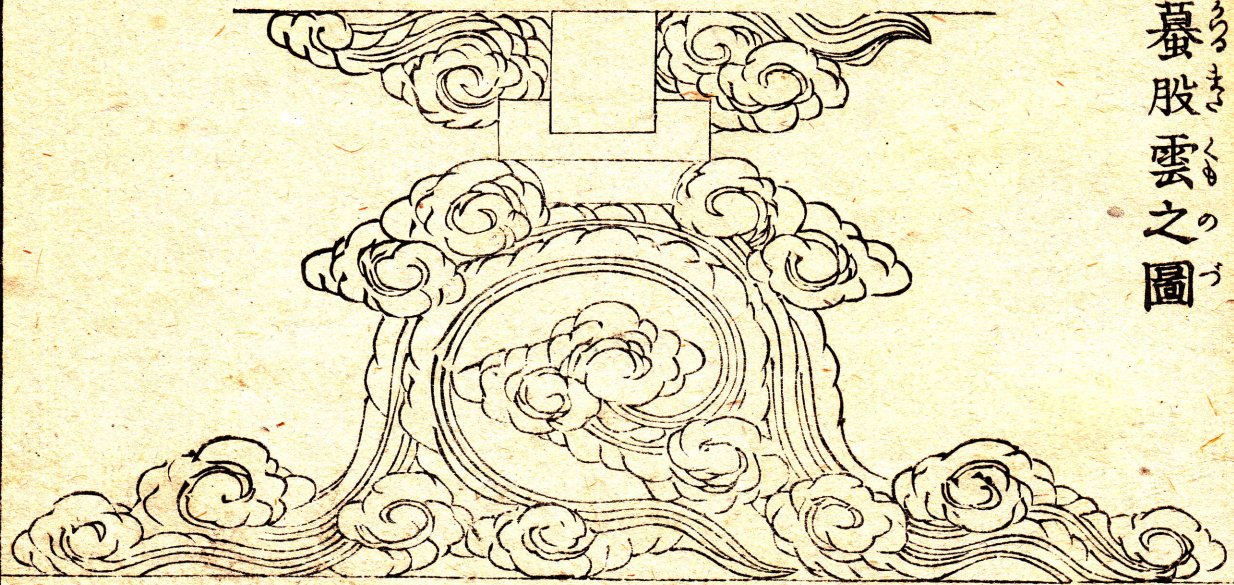
大サ八分



墓股雲水の圖



蟬股雲之圖



虹梁之圖 こうりやうのづ

妻 つま を さす

下の虹梁 したのこうりやう

大サすとり

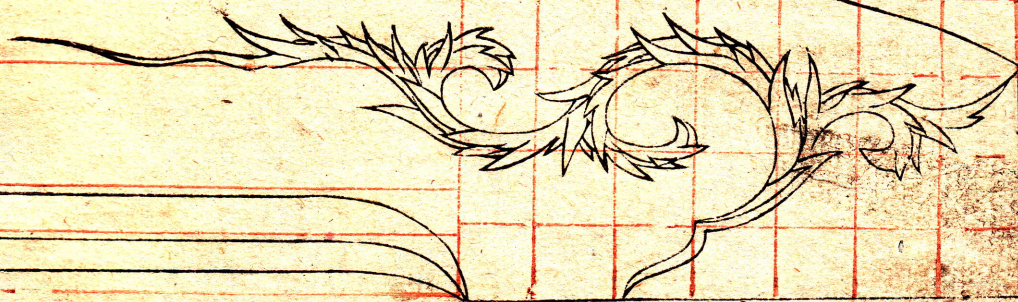
上の虹梁 うへのこうりやう

九多 くた を さす

一眉 ひとみ の つり

越中 えちう 十 ふ

志 し い ッ



十ハ

一眉の目より

そとをふ

想中十ふ

ふふッ

かあり

一線振の心刺の

ふふかむ

ふふふ入

ふふふふふ

言ふ大事



木ふた

ふふ

ふふ

参考なり

実付木なり

三斗之割

一斗ハ拾五の

割

其小定るこ

又七ッせふ

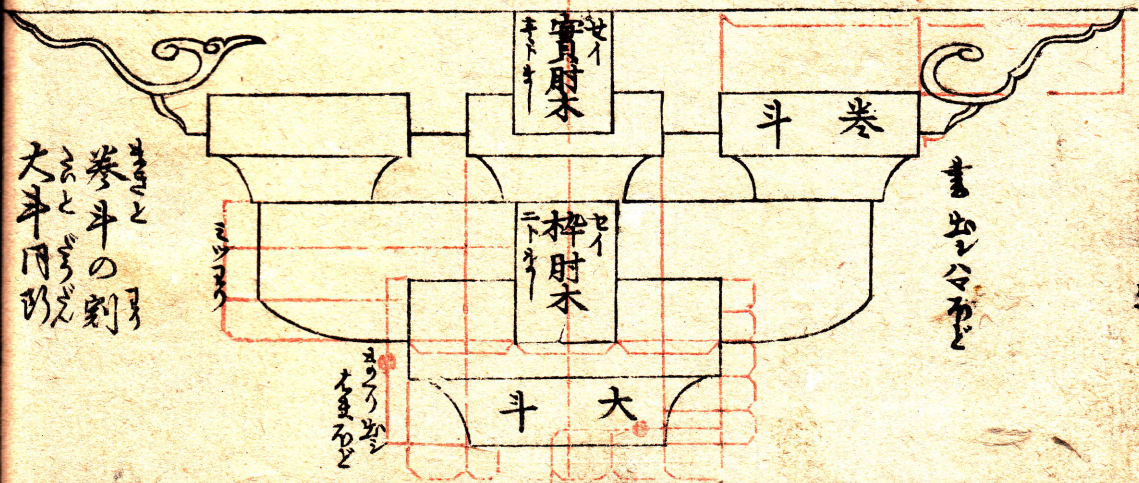
ともあり

妻傍ハ六ッ

ふふせふと

ともあり

明ふあらず



書せしむ

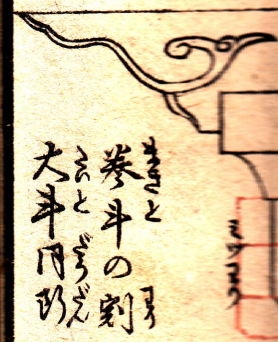
よりり

大斗内形

参斗の刺
大斗内
大斗内

神門之古事

一夫黒木神門ト云ハ人王弟一神武
天皇大和國宇根飛山之東南賀
志和原ニ始テ宮ヲ造玉フ時陽鳥
帝ニ告テ曰ク天之大棟之木地之
横梁ハ人之忠柱ニ之息之柱是比
門トシ爰ニ止リ柱居テ帝宮ヲ守護
奉可キト云々又神家相傳ニ曰往右ハ
奴婢之類至賤成者ヲ鳥獸之此
シテ名ヲ呼外門ヨリ内ニ入事ヲ禁ト云
鳥止リ居ル名有テ鳥居ト名付ト
成ル可キカ



ミツル

黒木神門

神門の
造り
丸木
造
神門の
造り
丸木
造

大サキ寸一取

下

内法梁下口方

定ニ板小をさへり

板之本の虫

は借

板のとうびまう
とろびあさへ上ひら
とろびあさへ

一ト

一ト

柱之本の云

に傳

柱のとうびまをト
とうびまをさへひらけ
まをうり

諸鳥居之木割

高さ根包上ばより貫下ばまを内流り

隅より柱の太大間拾ふ割きッ

是と寸取と云より貫の中へくら

拾ふ割ハッ厚サニッなり鼻のぞめ

大間ニッ割をッ鼻の切やハ朱曳

の多う束の大サ貫の中やど厚さぬき

の面内さなりハ柱のとうびあふべし

唐輪の大サ柱の裏の月原さ柱ニッ

割きッ笠木諸木柱など又や松

るさへ柱ニかまう右をみッふつう

二ツ^{きぎ}は本^{きぎ}三ツ^{きぎ} 禱^{きぎ}本^{きぎ}あり^{きぎ} 笠^{きぎ}本^{きぎ}の^{きぎ}表^{きぎ}す^{きぎ}へ

種^{きぎ}々^{きぎ}あり^{きぎ} 巾^{きぎ}拾^{きぎ}不^{きぎ}割^{きぎ} 笠^{きぎ}本^{きぎ}三ツ^{きぎ} 禱^{きぎ}

本^{きぎ}六ツ^{きぎ}と^{きぎ}割^{きぎ}あり^{きぎ} 巾^{きぎ}べ^{きぎ}も^{きぎ}六ツ^{きぎ}と^{きぎ}割^{きぎ}あり^{きぎ} 有^{きぎ}

又^{きぎ}三ツ^{きぎ}と^{きぎ}割^{きぎ}あり^{きぎ} 巾^{きぎ}べ^{きぎ}も^{きぎ}六ツ^{きぎ}と^{きぎ}割^{きぎ}あり^{きぎ} 余^{きぎ}も

本^{きぎ}引^{きぎ}不^{きぎ}表^{きぎ}す^{きぎ} 何^{きぎ}も^{きぎ}本^{きぎ}の^{きぎ}元^{きぎ}も^{きぎ}社^{きぎ}の^{きぎ}

右^{きぎ}引^{きぎ}不^{きぎ}表^{きぎ}す^{きぎ} 巾^{きぎ}べ^{きぎ}も^{きぎ}六ツ^{きぎ}と^{きぎ}割^{きぎ}あり^{きぎ} 余^{きぎ}も

ハ^{きぎ}所^{きぎ}の^{きぎ}か^{きぎ}う^{きぎ}げ^{きぎ}ふ^{きぎ}よ^{きぎ}う^{きぎ}べ^{きぎ}ー^{きぎ} 見^{きぎ}上^{きぎ}る^{きぎ}

不^{きぎ}ハ^{きぎ}ひ^{きぎ}く^{きぎ}ー^{きぎ} 見^{きぎ}上^{きぎ}る^{きぎ} 所^{きぎ}を^{きぎ}言^{きぎ}く^{きぎ} 根^{きぎ}包^{きぎ}

光^{きぎ}言^{きぎ}下^{きぎ}月^{きぎ}べ^{きぎ}ー^{きぎ}

明神鳥居

内添四方

半轉

是迄出スモ有

カサキ勿シヤキカ

本
ワシ目

本
川

本
市

本
川

本
川

本
川

本
川

笠木墨之仕様

三トマシ

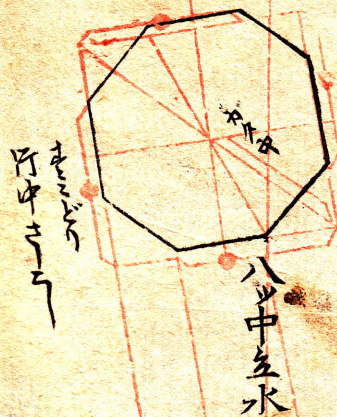
笠木不とり

かき木

硝木

八角指越墨

并
ハツ中之墨

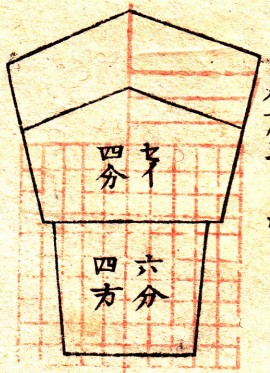


柱真

木嶋ノ
行中

笠木嶋木之割

ハナ三トヨ



一笠木束の真

方ミとミ

かんやうなる

を分と中せども 棟現る居

三里あり反ミふあうずべ

ふとある中言ミミあり

とミとミの秘傳



柱真

本名

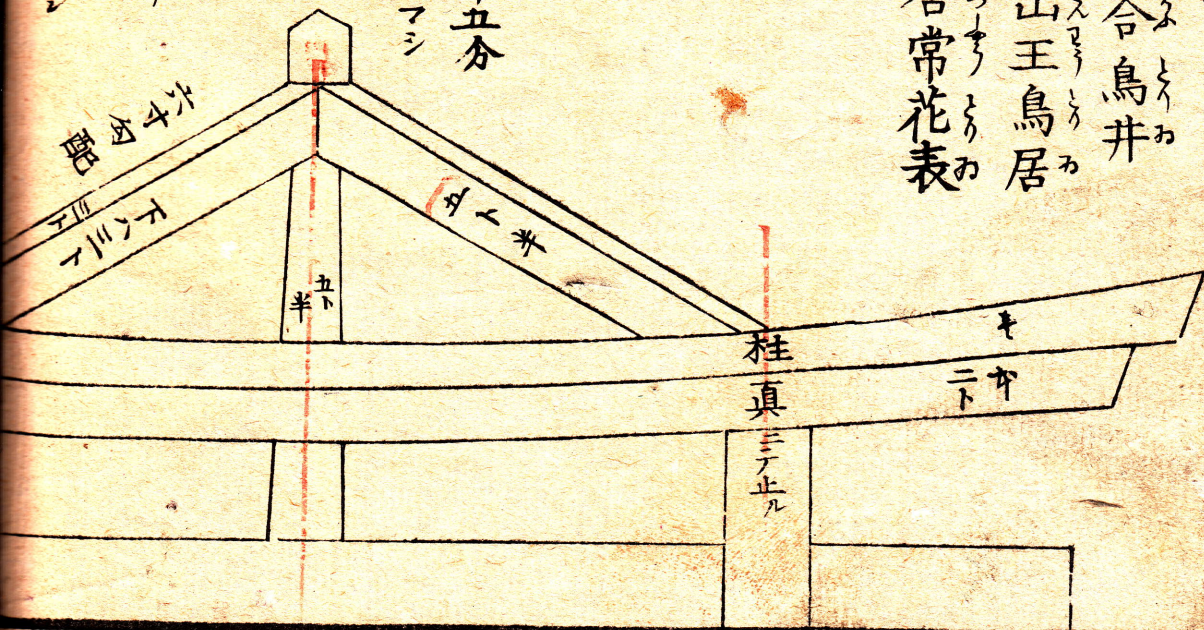
總合鳥井

俗山王鳥居

又合常花表

上棟巾五分
セイ三トマシ

合常ヨリ
下の割
常の如し



合常ヨリ
下之割
常の如シ

四ノ
四ノ

テ
イ

總合神門之古事

此多居へ此戲山目吉

山王權現之多居と從合

花表下云依ふ山王作

又へ合常代ある云

按つ小天台渚文

室做中の二諦と云

有く元より室観い安うびと云

傳教大師へ此二諦義ふよりい

山王之号と作る山之家い収之と書と横

之と書小貫さ王と云い横之と書と取之

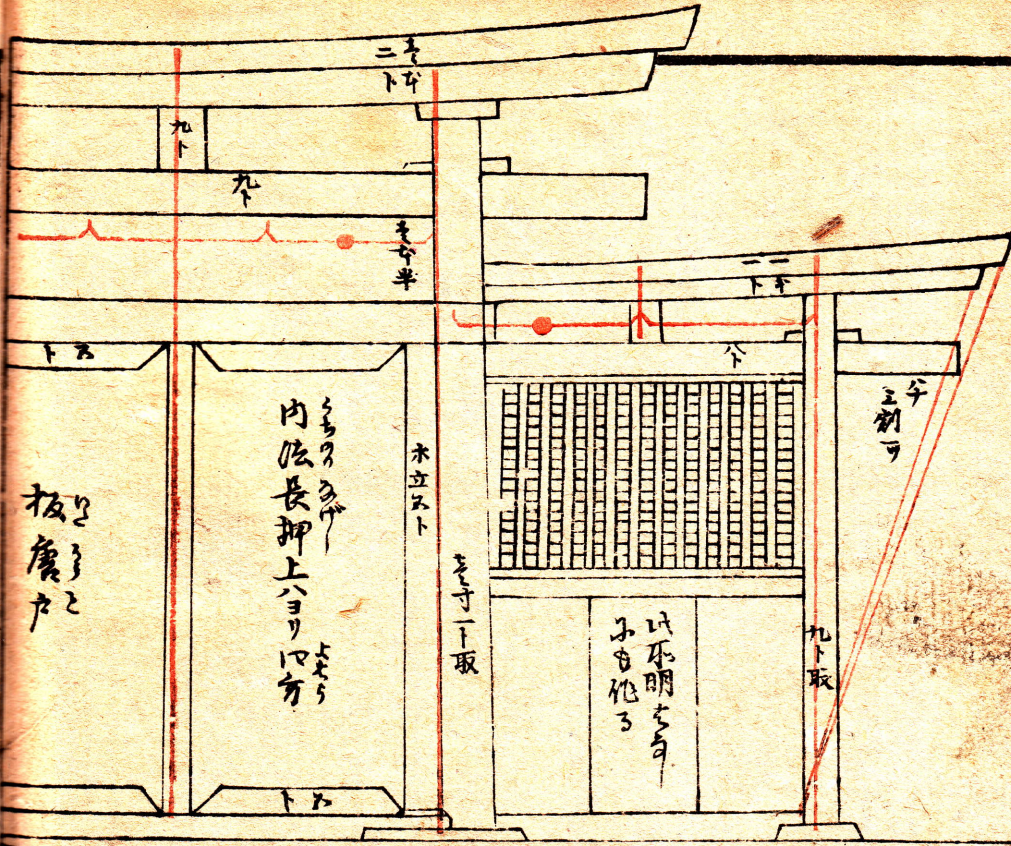
一書と要ささると之傳之と云い一之と云い

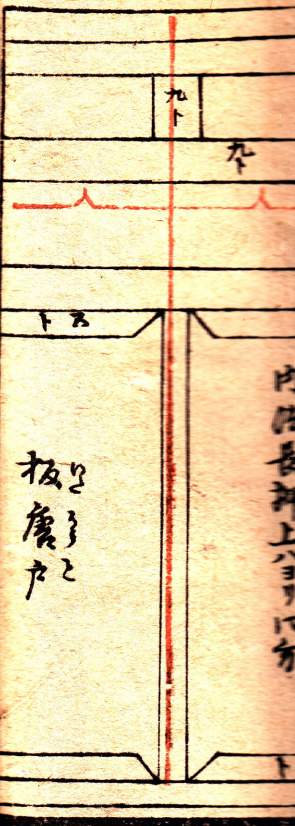
二書と元さ王と云い故に多居へ上小合常と

遠るより之傳之と假表多可シ

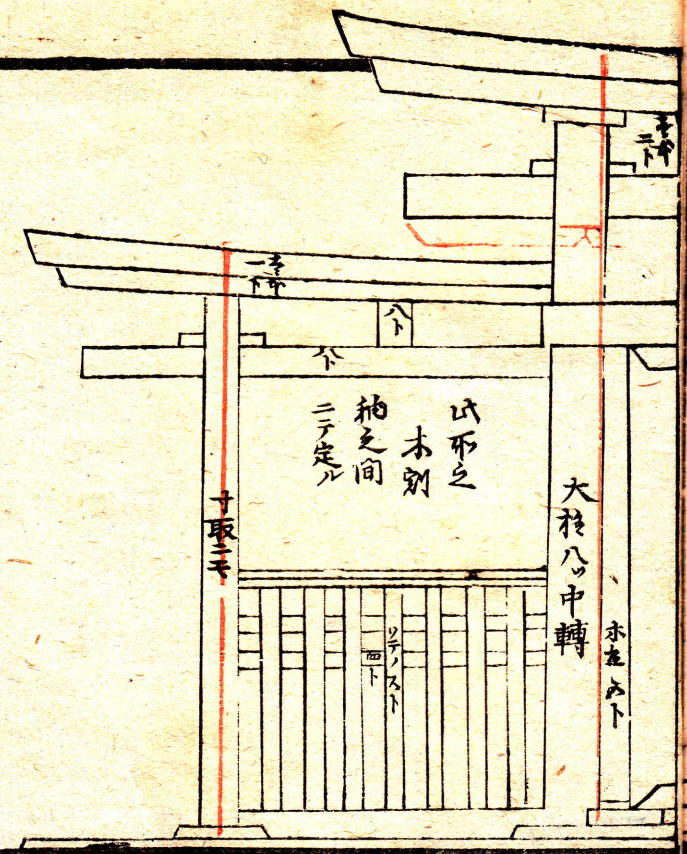
三輪花表

遠方幸々有之
坐本なり安そ衣





板廣戸



一此鳥居ハ大和國大己貴命初テ三輪
大明神之鳥居ヲ云 遷ヤ玉フ右額之文
ハ神代之筆之

大己貴命詠ニ曰

けくらゐぬ

岩木とあのをきぐさみ

かひちのりき

美むろふうねト詠ニ玉フ

故三此館ニ宮多クを居申リ人世之人此花
表と三輪大明ト拜之

